

## 夏に流行する感染症

冬に感染症や風邪をひきやすいイメージがありますが、夏に流行する感染症もあります。特に、子どもの間では三大夏風邪と呼ばれるヘルパンギーナ・手足口病・プール熱が毎年流行しています。

### 【ヘルパンギーナ】

乳幼児に多く見られる夏風邪の代表的なウイルス性の感染症。何度もかかってしまうおそれがあります。

#### ★症状

- ・潜伏期間は、3～6日。
- ・39℃以上の熱が1～3日つづくと同時に、のどが赤く腫れて小さな水疱がたくさんできます。
- ・頭痛や、嘔吐、下痢の症状がでることもあります。
- ・のどの痛みが強いために、食事や飲みものを受けつけなくなることから、「脱水症状」を起こすこともあります。

#### ★感染予防

- ・2～4週間の長期にわたり便中にウイルスが排出されるため、排便後、おむつ替えの後には十分な流水で手洗いをしましょう。
- ・マスクによる予防効果はありますが、使用する場合には保護者や周りの大人が子どもの体調に充分注意して着用させましょう（※2歳未満の乳児では、窒息の危険がありますので推奨されません）。



### 【手足口病】

口の中や手足などに水疱性発疹が出る感染症です。

#### ★症状

- ・潜伏期間は、3～5日。
- ・発熱、口や喉の痛み、手や足の発疹や水疱の症状が現れます。高熱が続くことは多くはありません。まれに、髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経系の合併症を引き起こすこともあります。

#### ★感染予防

- ・手洗いをよくしましょう。タオルは共用しないようにしましょう。また、唾液のついたおもちゃを触ったり舐めたりすることで感染するため、おもちゃの共有や貸し借りには注意しましょう。感染者の便中にウイルスが排出されるため、排便後やおむつ替えの後などは十分な流水で手洗いをしましょう。

### 【咽頭結膜熱（プール熱）】

発熱、のどの痛み、結膜の充血などの症状が出るアデノウイルスによる感染症です。

#### ★症状

- ・潜伏期間は、5～7日。
- ・高熱、頭痛、食欲不振、のどの痛み、結膜炎に伴う眼痛などの症状が現れます。

#### ★感染予防

- ・感染力が非常に強く、手指や飛沫を介して感染するので、手洗い・手指消毒やうがい、身の回りの消毒を行うことが大切です。
- ・学校安全法では第二種伝染病に位置づけられており、主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止とされています。登園や登校を再開する時期についてはかかりつけの医師に相談しましょう。